

編集後記

『岐阜聖徳学園大学国語国文学』第三十九号をお届けします。昨年(二〇一九年)五月一日より「平成」は、「令和」と改元されました。その典拠となったのは、『万葉集』巻五「梅花調卅二首并序」で、典拠が漢籍でないことが話題となりました。それにしても、「平成」の三十年はなんだったのか。教育関係でいえば、学習指導要領が平成元年から教えて四度かわり、「ゆとり教育」と「学力重視」に揺れ、最終的には、先の見えない不確実性の時代を切り拓く能力としての「資質・能力」コンピテンシー」という能力像が提示されました。これはかなりの難題です。アルファにしてオメガ、原点であり究極であるような能力像ともいえます。あせらずに、急がずに、地に足を付けて日々の実践に取り組んでいきたいと思えます。

もののふの 矢橋やばしの船は速けれど 急がば回れ 瀬田の長橋
―「急がば回れ」の由来となった室町時代後期の連歌師宗長の歌

(中村 記)

岐阜聖徳学園大学国語国文学 〈第三十九号〉

令和二年三月十日 印刷

令和二年三月十五日 発行

編集・発行 〒501-6194 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目一番地

岐阜聖徳学園大学

国語国文学会

代表 中村 哲也

印 刷 〒440-0884 愛知県豊橋市下地町字宮腰二四

(有) イシグロ高速印刷

TEL(〇五三三)五四一―四九六

FAX(〇五三三)五四一―二七三六